

岩手県の 土地改良



CONTENTS

- 届け!県民の声!!2
- 農業の生産基盤や農村の生活基盤整備
のための予算確保を要請4
- 岩手県議会農業農村整備推進
議員クラブ現地研修会を開催5
- 「水と土と農」ふれあいツアー開催6
- 水源地域の保全活動の一翼を担う7
- 一方井ダムと水の大切さについての学習会を開催7
- 21世紀土地改良区創造運動東北地方大賞受賞8
- 水土里ネット紫波東部事務所移転のお知らせ8
- 本会監事に高橋光幸氏が就任8

2010 No.553

■発行所/岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

■編集発行人/川邊 賢治 ■印刷所/永代印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>

はじめての稲かり (遠野市立小友小学校 安倍栄生)
平成22年度絵画コンクール 小学校高学年の部 金賞



届け！ 県民の声！！

▶ 「農業・農村の基盤づくり推進大会 2010」開催

岩手県農業農村整備事業推進協議会（舘澤宏邦会長）が主催する「農業・農村の基盤づくり推進大会 2010」が8月27日、盛岡市内の会場で開催され、土地改良区関係者のほか、農家や消費者など約650人が参加した。

本大会は、平成22年度の農業農村整備事業予算が大幅に削減されるという不測の事態を受け、多くの県民に農業農村整備の必要性、重要性について理解を一層深めてもらおうと開催されたもので、共催団体にはJA岩手県中央会や岩手県農業会議、岩手県農業公社が、そして後援には県、市長会、町村会等の行政機関、さらには岩手県商工会議所連合会、商工会連合

会などの経済団体が名を連ね、本県の総意を反映する大会となった。

大会の冒頭挨拶に立った舘澤会長は「本日の大会決議を、皆様の総意として採択し、本県の農業農村が将来にわたって維持され、明るい農村社会を築いていけるよう参会の皆様のご協力をいただきたい」と述べた。

達増拓也県知事をはじめ、佐々木一榮県議会議長、平野達男参議院議員、野中広務全国土地改良事業団体連合会長（佐藤準専務理事代理）の祝辞の後、藤井克己国立大学法人岩手大学学長が「私たちのいのちを育む水と土―農業農村整備事業の今日的意義を考える―」と題し、



【挨拶を述べる舘澤会長】

基調講演を行った。

引き続き、農業農村整備事業予算の削減による農業生産や農村生活への影響について、胆沢平野土地改良区の都鳥地区福田施行委員会会長と猿ヶ石北部土地改良区の川村理事が意見発表を行い、農業農村整備の着実な推進を願う現場の声を参集者に訴えた。

大会の最後に、鹿妻穴堰土地改良区的女性職員が大会決議案を読み上げ満場の拍手で採択された。

この大会決議は10月8日の県議会本会議において請願採択され、即日、国に対し意見書が提出された。



大会決議

農業・農村は、県民の「いのち」の源である食料の安定供給とともに、水や緑、豊かな生態系といった、本県が世界に誇る自然環境の保全など、多面的な機能の発揮を通じて、私たちの日々の暮らしを支えています。

しかしながら現在、農業・農村は、農業従事者の減少・高齢化、農産物価格の低迷などによって活力が失われ、農村社会の維持が困難となりつつあります。

加えて、水田の半分以上は区画が小さく、しかも殆どが湿田のため、生産コストの低減や麦・大豆など転作作物の生産拡大が進みにくくなっています。

さらに、昭和30年代以降に整備した取水施設や用水路などは、本県の厳しい気象条件の中で老朽化が進み、農地への用水供給に不安が高まっています。

このような状況の中、安全・安心な食料を生産する農業と、緑豊かで心安らく農村を将来にわたって維持していくためには、農地の整備とともに農業水利施設の更新、さらには集落道や污水处理施設など農村集落の生活環境基盤の着実な整備が必要です。

現在、国においては、持続的な農業経営を支援するために、「戸別所得補償制度」の本格実施が検討されていますが、意欲ある農業者が効率的・安定的な農業経営を実現していくためには、こうした農業・農村の整備が必須の要件であることは言うまでもありません。

全ての県民が、今後とも、豊かな食と緑に満たされ、「ひと」と「ひと」との繋がりの中で暮らしていけるよう、また、すべての農業者がしっかりとした将来展望を持って、日々の農作業に勤しみ、明るい農村社会を築いていけるよう、左記事項について、本日ここに、農業・農村の基盤づくり推進大会に集う我々の総意として決議します。

記

農業・農村が有する多面的な機能の維持・増進に向けて、食料の安定供給や農業・農村社会の担い手づくりに欠かせない生産基盤や生活環境基盤の整備を、戸別所得補償制度とともに、施策の両輪として着実に推進すること

平成22年8月27日

農業・農村の基盤づくり推進大会（岩手県農業農村整備事業推進協議会）

農業の生産基盤や農村の生活基盤整備のための予算確保を要請

▶ 農業農村整備事業推進意見交換会を開催

7月27日、水土里ネットいわて（舘澤宏邦会長）では、盛岡市内の「エスポワールいわて」において、達増拓也知事及び県の幹部職員と本会役員との意見交換会を開催し、農業農村整備事業の着実な推進について意見を交わした。

冒頭挨拶で舘澤会長は「水田農業を対象とした戸別所得補償のモデル対策が導入されたが、本県は水田整備率が全国平均より10%以上も低く、制度を有効活用するためにも着実な整備が望まれる。また、耐用年数を迎える農業水利施設についても適切な維持更新をしていくことが課題となっている。さらに、本県の農村部は、污水处理施設や下水道の整備が、都市部に比べ遅れている。このような状況にもかかわらず、平成22年度の国の農業農村整備予算は、対前年度比6割減となり、本県にとっては非常に痛手である。将来の食料供給力の向上のためにも農地や農業水利施設を良好な状態で保全していくことが重要である」と述べた。

続いて達増知事は「農業を取り巻く情勢は、農業従事者の減少や高齢化、さらには産地間競争の激化や農作物価格の低迷といった厳しい状況が続いている。一方で食の安全安心に対す

る国民のニーズは一層高まっており、これまでにない追い風を感じている。

そのような中で県では、昨年度策定した“食と緑の創造県いわて”の実現を目指している。目標を達成するためには、未来を拓く経営体の育成が必要であ



【挨拶を述べる達増知事】

り、土台となる農地や農業水利施設といった生産基盤の整備や保全が重要である」と述べた。

意見交換に先立ち、舘澤会長が「戸別所得補償制度とともに、食料自給率の向上、農業の担い手の確保に欠かせない農業の生産基盤や農村の生活基盤の整備が着実に進むよう予算の確保を図ること」を主旨とする要請書を知事へ手渡した。

要請に対し、県の小田島智弥農林水産部長は「我々としても全く同じ認識であり、平成23年度の農業農村整備に関する予算提言を国に要望することになっている」と応えた。意見交換では、須藤勝夫農村整備担当技監



が、農業農村整備の推進に関する取組方向について、そして中道明県土整備部下水環境課計画担当課長が農業集落排水事業の普及状況と合併処理浄化槽の推進について述べ、本会からは「水利施設の老朽化」や、「基盤整備事業とセーフティーネットの構築」等、土地改良区が取り組んでいる事例を紹介し、基盤整備の必要性を訴えた。

最後に達増知事が「それぞれ特色のある事例を紹介していただき、改めて農業農村の基盤整備の重要性を痛感させられた。この事は、国に対してしっかり



【達増知事に要請書を手渡す舘澤会長】

要請していきたい。また、今後も引き続き担い手育成に向けたほ場整備、農業水利施設の適切な維持更新や、地域協働による保安全管理の取り組み等について、協力をいただきながら着実に推進していきたい」と述べ、意見交換会を締め括った。

岩手県議会農業農村整備推進 議員クラブ現地研修会を開催

▶ 国営土地改良事業調査地区「岩手山麓地区」等を視察

岩手県議会農業農村整備推進議員クラブ（菊池勲会長事務局 水土里ネットいわて）では、9月21日に盛岡広域振興局管内において現地研修会を開催し、関係者を含め約60名が水利施設の老朽化の現状や農業農村整備事業の効果とこれに関連する営農状況等について理解を深めた。

今回の研修では、施設の老朽化に伴い通水機能や強度の低下が危惧され、早急な補修等の必要性がある国営土地改良事業調査地区「岩手山麓地区」の現状や農業農村整備事業を契機として設立された、岩手町一方井地区の営農組合等の活動を視察するとともに、地元生産者らと意見交換会を行い、地域の実状について認識を深めた。



【挨拶を述べる岩手山麓
土地改良区連合の田沼理事長】

滝沢駅近くの水土里ネット岩手山麓連合の事務所前では、岩手県農林水産部農村計画課の伊藤栄悦 団体指導・国営担当課長、水土里ネット岩手山麓連合の工藤和彦 事務局長が地区の概要と課題、施設の維持管理状況等を説明し、事務所敷地内にある円筒分木工や住宅地の間にあるパイプライン、横断サイホンの老朽化の現状を視察した。

午後には、7月17日の豪雨により激甚災害に指定された岩手町横沢地区の被災状況を確認し、「一日も早く復旧し地域住民が元の生活に戻れるように、行政と一体となってこの問題に取り組んでいきたい」と述べていた。

また、一方井地区の三浦青果のビニールハウス前では、代表の三浦正美氏が、コンビニ等への水菜の出荷における、絶えず安定供給をしなければならない辛さや、季節労働力の確保、ハウス栽培による維持管理の難しさ等、畑作農家ならではの苦勞について、黒澤金一営農組合長からは農事組合法人設立に至った経緯や現在の活動状況について報告がなされた。



【現地にて説明を受ける議員たち】

最後に、地元の生産組合の代表者らと意見交換を行い、「農家戸数が減少する中で、いかにして町の農業生産量を維持していくか」、「農業の振興は活力ある町づくりに欠かせない。意欲をもった農家を支援し、彼らが安定した農業を継続していくにはどうすれば良いか」等の切実な発言もあった。

議員側からも県や町と一体となって、これらの諸問題に取り組んでいきたいと応え、閉会した。



【白熱した議論を展開】

「水と土と農」ふれあいツアー開催

▶ 農業用水の取水施設等を見学



水土里ネットいわてが主催する「水と土と農」ふれあいツアーが8月6日開催され、遠野市・花巻市を巡るツアーに、親子連れ等約40名が参加し、農業農村整備事業と農業の持つ多面的機能について理解を深めた。

最初に訪れた水土里ネット遠野市が管理する角鼻頭首工では、浅倉理事長が「角鼻頭首工は猿ヶ石川を堰き止めて下流の農地およそ200haを灌漑している。施設を見ながら重要性を理解して頂きたい」と挨拶した。

参加者たちは、頭首工のゲートが同水土里ネットの職員の操作によって開閉する様子を見学しながら、取水量の調節機能や魚道の役割等についての説明を受け理解を深めていた。

次の見学地に向かう途中、花

巻市東和町を流れる猿ヶ石川河川敷にある「カプトムシふれあい童夢」に立ち寄り、カプトムシ釣りをしてひとときを楽しんだ。



【うまく釣れるかな？】

県営かんがい排水事業豊沢川地区で整備した宮野目揚水機場では、施設を管理する水土里ネット豊沢川の職員が、「このポンプ場は、昭和4年に周辺の農地およそ600haを灌漑する為に設置したが、設置から60年程経過したので、平成9年にポ

ンプ場を新しく造り直した。今は水道と同じように田んぼも蛇口をひねると水が出てようになってきているので、田んぼへ水を入れるのが楽になり、農家も喜んでいる」と説明していた。

参加者たちは、「農業は作物を作るだけだと思っていたが、農業用水を取水する施設やそれを管理する人等、多くの支えがあって農作物が作られていることを知った」「揚水機場、頭首工といった施設があることを初めて知った」また、参加した子どもたちは「水を大切にしていきたい」「カプトムシを取れてよかった」「資料をたくさんもらったので、自由研究のテーマとしたい」などと感想を話していた。



【角鼻頭首工を見学する参加者】



【宮野目揚水機場を見学する参加者】

水源地域の保全活動の一翼を担う

▶ 「豊沢川の森」森林ふれあい体験 2010 を開催

9月17日、水土里ネット豊沢川（平賀蔵理事長）では、豊沢ダム周辺の水源地域において、「豊沢川の森」森林ふれあい体験 2010 を開催し、県や関係団体の職員約 50 名が、草刈りやカエデやブナ等の広葉樹の苗木の補植作業を行なった。



【草刈作業風景】

この活動は豊沢ダムの水源涵養と地域住民への意識啓発を図ることを目的に水土里ネット豊沢川が主体となっており、花巻市森林組合が共催、その他に県や清掃業者が協力団体として参加している。

豊沢ダムの水は同水土里ネットにとって重要な水源であり、活動には平賀理事長始め役員、総代も参加して清掃活動に汗を流した。

雑草がきれいに刈りとられ、補植された現地を見ながら、関



係者たちは満足そうに談笑し、植えた苗木が「どれくらいに育つか楽しみだ」と、早くも来年の活動に思いを馳せていた。



【重機と人力での補植作業】

一方井ダムと水の大切さについての学習会を開催

▶ 一方井小学校4年生が土地改良施設を見学

水土里ネット一方井（黒澤金一理事長）は、9月21日、一方井小学校4年生 14 名を対象に管内の一方井ダム等の役割や水の大切さについて学ぶ土地改良施設見学会を開催した。

冒頭、挨拶に立った黒澤理事長は「ダムの水がどのようにして農家の役に立っているのか、土地改良施設を見学しながら勉強していきましょう」と述べた。

児童たちは学校前からバスに乗り込み、一方井ダム、ファー

ムポンドの順に水が流下する仕組みや、スプリンクラーによる畑地の散水状況を見学し、ダムの水がどのように使われているのかについて説明を受けた。

児童たちはこの見学会を通じて、水の大切さを学ぶと共に、一方井ダム周辺のゴミ拾いも実施し、環境美化活動にも一役買っていた。

「土地改良事業で整備された道路や水路についても地域の宝であり、大切にしていかなけれ



ばならない」という水土里ネットの説明を受け、大きくうなずいていた。



【農家からスプリンクラーの説明を受ける児童たち】

